



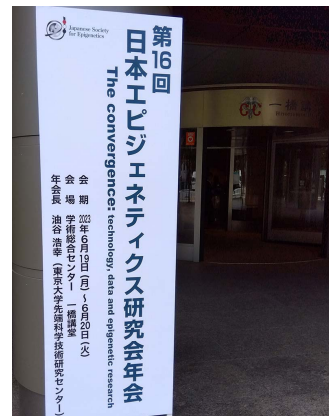
第16回年会「The Convergence: technology, data and epigenetic research」開催

第16回日本エピジェネティクス研究会年会在、2023年6月19日～20日の2日間、一橋講堂において開催されました。本会は、新学術領域研究（非ゲノム情報複製）および学術変革領域研究（ゲノムモダリティ）からのご協賛を受け、7つの財団および団体、21の企業にご支援いただきました。5月に新型コロナウイルスの第5類への移行に伴い、すべての行事を対面で開催することが可能となり、348名（登録者276名、招待者など72名）の方に参加していただきました。一般演題12題、ショートトーク8題、ポスター発表101題に加えて、特別講演（谷内江望先生）、招待講演2題（酒井寿郎先生、西村栄美先生）、新任幹事講演（一柳健司先生）、奨励賞受賞者講演（落合博先生）が行われました。新学術領域との共催で招聘した3名の海外研究者（Kristian Helin 先生、Huck Hui Ng 先生、William Greenleaf 先生）には講演に加えて Meet_the_Experts へのご協力を頂き、最後に次回年会長講演（立花誠先生）が行われました。

エピジェネティクスは様々な生命現象を理解するための基盤としてますます重要となっており、研究分野も多様化している一方で、解析技術の急速な進歩は1細胞オミックスや空間解析による情報収集を可能としました。このような状況を踏まえて、本年会では「The Convergence: technology, data and epigenetic research」というテーマを設定し、様々な研究者にエピジェネティクスの視点からの生命現象の解明に向けて今後の見通しを語っていただき、参加者の皆様とともに議論していただくことを目的として開催されました。今回は4年ぶりの完全対面のみの開催ということもあり、講演会場では活発な質疑応答があり、ポスター会場でも盛んに議論が行われました。

最後に、年会の開催目的の一つとして研究会参加者間の交流が挙げられると思いますが、初日のポスターセッションからネットワーキング交流会へとシームレスに進行したことによって、協賛企業も含めた参加者の皆様に対面で交流頂く場が提供されました。

講演者の皆様、参加者の皆様、また、年会の運営をしていただいた組織委員会、油谷研究室の皆様、関係者の皆様、大変ありがとうございました。



一橋講堂 入口



講演会場



ポスター会場の様子



交流会の様子



幹事会と総会が開かれました

- ▶ 6月19日に幹事会が、6月20日に総会が行われました。
- ▶ 2024年の年会は、立花誠幹事（大阪大学）を年会長として、2023年6月13日、14日に大阪中央公会堂で開催される予定です。詳細は後日お知らせいたします。
- ▶ 2025年の年会長には、沖昌也幹事（福井大学）が選出されました。

奨励賞受賞者の表彰が行われました

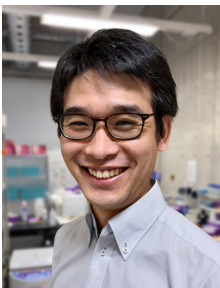
本会の賞等選考委員会による厳正な審査の結果、若手研究者の中から落合博さん（九州大学）が選ばれ、伊藤隆司代表幹事による表彰が行われました。

おめでとうございます！

以下受賞者からいただいたコメントです。



この度は、エピジェネティクス研究会若手奨励賞を頂戴し、深く光栄に感じております。2015年から参加してきた本研究会における憧れの奨励賞への受賞が実現し、心から喜びを感じています。この榮譽に至るまでの研究活動において、広島大学統合生命科学研究科の山本卓教授、東京工業大学の木村宏教授、そ



して九州大学生体防御医学研究所の大川恭行教授には深く感謝しております。皆さまから頂いたご指導、ご支援があったからこそ、今回の受賞を果たすことができました。受賞の名に恥じぬよう、エピジェネティクス研究者としてさらなる発展と興味深い研究成果を追求してまいります。引き続きのご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

落合 博（九州大学 生体防御医学研究所 遺伝子発現動態学分野・教授）

特別講演・Special Lecture が行われました



伊藤先生と話す谷内江先生



Kristian Helin 先生



Huck Hui Ng 先生



William Greenleaf 先生



第16回エピジェネティクス研究会年会を終えて



第16回年会長 油谷浩幸

6月19日、20日に東京都千代田区の一橋講堂において開催された第16回日本エピジェネティクス研究会年会は、おかげさまで盛会裏に終了いたしました。

年会長としては、4年ぶりに皆さんに完全対面で議論、交流して頂く場を提供できたことに大きな安堵を覚えています。Covid-19の第5類への移行にともない、ネットワーキング交流会の開催を決定できたのが4月でしたし、開催直前まで感染予防対策をどうするかという検討を行っておりました。何よりも海外からの渡航に関する制限がなくな

ったことにより、4名の著名な研究者に来日いただき、講演に加えて Meet the Experts セッションでは彼らと直接に対話できる機会も設けられました。一般講演、ショートトーク、ポスターに加えて特別講演、招待講演など盛り沢山のプログラムを編成頂いたプログラム委員の先生方（山田泰広委員長）、また航空運賃高騰の中、協賛セッションを実現させていただいた新学術領域（中西真代表）には本当にお世話になりました。

年会の開催目的の一つとして研究会参加者間の交流が挙げられると思いますが、従来のプログラムをやや変更して、初日のポスターセッションを夕刻に移してネットワーキング交流会と並行開催にいたしました。20時すぎまで会場のあちこちで協賛企業も含めた参加者の皆様に対面で交流頂く場を提供できたように思います。

今回の年会はエピジェネティクス研究が急速に多様化するなかで、研究者コミュニティをいかに進化、発展させていくか、1細胞レベルのオミックス情報が大量に収集される現状に個々の研究者がどのように貢献できるのかなどを考える契機としていただけたらと思い、Convergenceをテーマに選定いたしました。自身が20年ほど前にマイクロアレイを用いてChIP-chipに着手し、NGSの登場に伴いChIP-seqを始めたことが、自分がエピジェネティクス研究に惹き込まれるきっかけとなり、今回は年会長まで務めさせて頂いたことは研究者として大変嬉しいことであり、コミュニティの皆様にも永年のご支援について感謝にたえません。

最後になりましたが、ご参加いただいた皆様、ご協賛を頂いた新学術領域、学術変革領域研究プロジェクト、助成を頂戴した各団体・企業、そして年会準備にご尽力頂いた組織委員、プログラム委員の先生方にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

来年6月に大阪で開催される第17回年会で皆さまと再会できることを楽しみにしております。

情報を求めています！！

研究員・ポスドク募集および他の研究会のお知らせなど、ニュースレターを利用して公開してみませんか。年会に関するご意見・ご感想もよろしく願います。お近くの広報委員に気軽にe-mailください。

(代表) 近藤豊 (ykondo@med.nagoya-u.ac.jp)
佐渡敬 (tsado@nara.kindai.ac.jp)
斉藤典子 (noriko.saito@jfc.or.jp)
沖昌也 (ma4sa6ya@u-fukui.ac.jp)
中山潤一 (jnakayam@nibb.ac.jp)

日本エピジェネティクス研究会事務局

群馬大学 生体調節研究所
生体情報ゲノムリソースセンター
ゲノム科学リソース分野内
庶務担当幹事：畑田出穂、担当：岩田浩美
住所：〒371-8512 群馬県前橋市昭和町3-39-15
TEL: 027-220-8111
E-mail: jse-jimukyoku@ml.gunma-u.ac.jp

日本エピジェネティクス研究会
令和5年度第1回幹事会 議事要旨

場所：学術総合センター 一橋講堂 2F 会議室 203

日時：令和5年6月19日（月）12:00～13:00

出席者：牛島俊和、木村 宏、胡桃坂仁志、近藤 豊、斉藤典子、佐々木裕之、村上洋太、金田篤志、平谷伊智朗、油谷浩幸、岩本和也、浦 聖恵、小布施力史、木下 哲、副島英伸、中山潤一、立花 誠、山田泰広、岡田由紀、伊藤隆司、梅澤明弘、沖 昌也、角谷徹仁、眞貝洋一、鈴木 拓、中尾光善、中島欽一、西野光一郎、畑田出穂、一柳健司（30名）

欠席者：大川恭行（委任状）、仲野 徹（委任状）、石野史敏（委任状）、佐渡 敬（委任状）、多田政子（委任状）、金井弥栄（委任状）、吉田 稔（委任状）、古関明彦、白髭克彦（9名、うち委任状7名）

議事に先立ち、委任状を含めて定足数（2/3）に達していることが確認され、承認された。

報告事項

1. 令和4年度事業報告

畑田庶務委員長より以下の事が報告された。

- (1) 幹事会が1回（令和4年6月9日（木））開催された。
- (2) 第16回年会が油谷浩幸年会長のもと令和5年6月19-20日に学術総合センター一橋講堂（東京）にて開催されている。
- (3) 第17回年会会長に立花誠氏（大阪大学）が選出された。
- (4) 伊藤代表より、第15回年会の決算報告が行われた。

2. 庶務委員会報告

畑田庶務委員長より以下の事が報告された。

令和4年12月31日現在の会員数と会費納入状況

一般会員 408 名（会費納入率 63%）

学生会員 128 名（会費納入率 37%）

賛助会員 6 社（会費納入率 83%）

令和5年4月28日現在

一般会員 425 名

学生会員 152 名

賛助会員 5 社

また、毎年会員数が増加しているのに対し、会費納入率は減少していることが申し添えられた。

3. 広報委員会報告

近藤広報委員長より、中尾幹事から新しく開発されたテクノロジーを研究会ホームページで紹介してはどうかとの提案があったことが報告された。具体例として中尾幹事より「遺伝子を見える化するアプリ」が紹介された。今後、メールにて幹事より意見を寄せてもらうこととなった。

4. 令和5年奨励賞の受賞者の選出について

奨励賞選考委員会眞貝委員長より、落合博氏（九州大学）が選出されたことが報告された。

5. 年会参加助成の採択者について

奨励賞選考委員会眞貝委員長より、鈴木裕香氏（パスツール研究所、フランス）と田中宏氏（Sanford Burnham Prebys Medical Discovery Institute、米国）の2名が選出されたことが報告された。

6. 第16回（令和5年）年会について、

油谷年会長より、現時点で270名以上の参加登録があり、目標としていた300名も達成見込みであることが報告された。

7. 第17回（令和6年）年会について

立花年会長より、令和6年6月13～14日に大阪市中央公会堂で開催予定であることが報告された。

8. 幹事再任・辞退について

畑田庶務委員長より幹事の任期満了に伴う再任・辞退について、2023年3月22日のメール審議にて承認されたことが報告された。

再任 10 名

牛島俊和、大川恭行、木村 宏、胡桃坂仁志、古関明彦、近藤 豊、斉藤典子、村上洋太、金田篤志、平谷伊智朗

辞退 3 名

佐々木裕之、仲野 徹、石野史敏

また、今後の任期予定についても確認があった。

9. その他

特になし。

協議事項

1. 令和4年度収支決算について

畑田庶務委員長より資料に基づいて説明された。収入は会員の会費や年会補助返金など1,134,366円、支出は事務局人件費、奨励賞副賞金(1名)など1,406,443円、収支の差が272,077円の赤字となり、これまでの繰越額を合わせて通帳残高が6,380,112円となったことが報告された。収支の変動は奨励賞や年会参加補助の人数などの不安定要素に左右されていることや、過去9年間を平均すると黒字であることが申し添えられた。決算の監査が、中島氏と鈴木氏によってなされ、適正である旨報告され、審議の上、承認された。

2. 令和5年度収支予算案について

畑田庶務委員長より資料に基づいて以下の説明がなされ、承認された。

- 収入は原則として会費納入のみであり、およそ100万円である。
- 支出は主に事務局の運営費、ホームページの管理費、奨励賞など2,045,000円となる。印刷費や賞等選考委員旅費については、近年使用していないため、0円とした。
- 油谷幹事より、通帳残高が毎年目減りしている件について何らかの対策が必要であるとの指摘があった。

3. 令和5年度事業計画について

伊藤代表幹事より、通帳残高が毎年目減りしている件について、本研究会を持続可能なものとするために対策が必要であり、今後、年会費の値上げも含めて幹事間で意見交換を行いたい旨の発言があった。また、本会のメリットを会員に実感して貰うことが肝要であり、広報委員会報告にあった技術・ツール等の紹介活動をベースにZoomによる簡易セミナーの実施等も検討したい旨の発言があった。

4. 第18回(令和7年)年会会長の選出について

伊藤代表幹事より、これまで一度も年会が開催されたことがなく、地域独自のアクティビティがあり、昨年度の幹事会でも声が挙がっていた北陸地方での開催を福井大学の沖昌也氏にお願いしてはどうかとの提案があった。協議の結果、沖昌也氏が第18回年会会長として選出され、承認された。

5. 新幹事の選出について

- 伊藤代表幹事より、3名程度の新幹事の選出が提起された。
- 新幹事被推薦者5名の氏名、所属、職位、研究分野、推薦理由、会員歴、会員番号、過去5年の年会参加状況、口演演題数、ポスター演題数ならびに推薦者人数に基づき審議された。
- 1人3票を上限として無記名投票が行われた。
- 開票の結果、有田恭平氏と鈴木孝禎氏が選出され、幹事就任を依頼することとなった。

6. 名誉会員の選出について

伊藤代表幹事より、佐々木裕之氏、仲野徹氏、石野史敏氏の３名の推薦があり、承認された。

7. 各種委員会の更新

眞貝賞等選考委員長より、石野史敏氏の後任委員として、胡桃坂仁志氏の推薦があり、承認された。

8. その他

特になし。

(以上)